



理想の光明

(りそうのひかり)

学年主任より

136期諸君、応援歌練習を乗り越え、中間考査、進研模試などを経て、ようやく安高生への第一歩を踏み出せたと思います。7月21日(火)の合同LHRで学年主任として話した2点を再掲します。

1つ目。「安積高校の精神とは？」

安高には、服装規定がない。「ここにこう書いてある、校則に従いなさい。」というは楽。生徒も教員も考えないで済む。安積高校は、そうしない。敢えて違う道を選んでいる。なぜか。生徒の自主性を伸ばすことを大きな目標としているから。根底には、生徒への期待と信頼がある。そこを指導の拠り所・基盤としている。

校則で縛られるより自律心を問われる方が、実は厳しい。安高は、基本的に不文律文化。考え方、成長を促す。これが、学年目標「自主自律～『当たり前』の継続～」に込められた哲学であり、安積高校に連綿と流れ、受け継がれている考え方、精神的拠り所である。

136期諸君、1年生の今、是非「安積の精神」を胸に刻み、自分を、自分たちで日々鍛えていって欲しい。

2つ目。「大学入試の仕組み」

学習は厳しい。ただ、大学入試が最終目標ではない。間違えてはならない。目標は、教養を育むこと、人間力を鍛えること、人生の土台を築くことにある。

一方で、もちろん大学入試は極めて大切だ。そのためには、やはり学力。学校の指導の3本柱は、生き方指導、教科指導、進路指導だが、大学入試はその全てでもあり、特に、教科指導と進路指導は重要な2本柱である。とにかく学力をつけること！

入試は、大学・学部によって配点が異なり、1次試験と2次試験の総合点で合否が判定される。よく調べて、慎重に間違いのない選択をして欲しい。共に頑張りましょう。

生徒指導部より

暑さに負けず、コロナに負けず、自分の弱い心に負けず、目標と計画を自分で決めて、短い夏休みではありますが、毎日を充実させたものにしてください。

頑張る時と休む時のメリハリをつけることが大切だと思います。

「元気があれば何でも出来る」

(b y アントニオ猪木)

この夏、成長しよう！

8月・9月の予定

8月 3日(月)	特別時間割(～8)
9日(土)	夏季休業(～20)
21日(金)	夏季休業後全校集会 大掃除、第1回実力テスト
22日(土)	安積セミナーin Summer (清稜山俱楽部、～23)
24日(月)	登校指導(～27)
25日(火)	探究⑥⑦
27日(木)	45分授業
29日(土)	全統高1模試
9月 2日(水)	体育祭(～3)
15日(火)	I期期末考査(～18)
24日(木)	内科検診(1-1～1-4)
29日(火)	内科検診(1-5～1-7)



保護者の皆様へ

各クラスで実施される担任と保護者、生徒本人による「三者面談」では、文理の選択について、最終確認を行います。

2年生から3年生に進級する際、文理の変更はできません。

お子様の進路実現にとって、非常に重要な選択となりますので、この機会に、クラス担任とよくご相談ください。

頑張った！応援歌練習

6月25日(木)～7月1日(水)、安高1年生にとって重要な通過儀式とも呼ぶべき、恒例の「応援歌練習」が行われた。今年は、新型コロナウイルス感染防止の対応策として、様々な配慮がなされた。しかし、応援団による「熱い」指導は、例年通り、揺るぎないものであった。声が小さい、返事がそろわない、校歌や応援歌の歌詞がわからない、などなど、そのたびに応援団から活を入れられた。応援団の熱い指導に、最初は驚き、とまどったことだろう。

しかし、日々練習を重ねるうちに、だんだんと声は大きくなり、返事がそろい、校歌も応援歌も力強く歌えるようになっていった。短い期間で、たくましく成長していく136期生の姿は、私達学年スタッフにとって、とてもうれしく、誇らしかった。

最終日に見せた諸君の晴れやかな笑顔は、厳しい特訓から解放されたためのものなのか。いや、違う。どんなにつらく厳しいことも、逃げずに真正面から受け止め、最後までやり遂げた者しか味わうことのできない、充実感と達成感が、そこにはあったはずである。そして、一人では乗り越えられないことも、仲間と一緒になら、励まし合い助け合って乗り越えられることも、学んだのではないか。

「歴史」「伝統」「文化」を重んじること。これは、スマートに生きることが推奨される今の中では、ウケないことなのかもしれない。しかし、我々が生きていく上で本当に大切なこと、大切にしたい「精神」は、たとえどんな世の中になったとしても、きっと変わらないはずだ。それは、「歴史」「伝統」「文化」と呼ばれるものの中に、いつまでも根強く、脈々と受け継がれ、確かに残っていく。

136期生よ！「応援歌練習」という、安積高校の歴史的な伝統行事、文化を経験した諸君は、これで正真正銘の「安高生」になった。安積の「精神」を受け継ぐ担い手となつたのだ。諸君の今後の健闘に期待する。

※学年通信第2号(令和2年6月1日発行)
学年スタッフ全員の名前をちりばめた学年主任の挨拶文<答え合わせです>

世界広し(浩)と言え、大変ユニークな「歴史・伝統」と「開拓者精神」を併せ持つ安積高校。諸手続きも済み、高(純孝)い目標に向かって歩み始めた136期生。学年を担当させていただき大変光栄(孝栄)に感じております。生徒はまだあっちこっち場(千葉)所もわからず当惑していますが、しっかりと指導して行き、広(幸大)く世界に羽ばたくリーダーを育成したいと思います。安積高校の教育には質量とともに名門の名に恥じない内容が組み込(久美子)まれています。人の評価は、愚痴を言わず見返(美香)りを求める生き方にあります。「生徒一家庭一学校」スクラムを組んで力強く前進しましょう。一(正一/昭一)途に生徒の力を最大限に伸ばせるように努力してまいります。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

I期中間考査、終わる

7月9日(木)～7月14日(火)、I期中間考査が行われた。高校に入學して初めての定期考査だったので、緊張していた生徒が多く見られた。

先日、各クラスで個票を配付したが、結果はどうだっただろうか。

クラス順位や学年順位が出ているが、「上には上がっている」ということを肝に銘じるべきだろう。今回の結果を真摯に受け止め、その反省を次回に生かすことが大切だ。今後は、次のことに注意してほしい。

1 今回の結果をもとに、目標を決めよう。

目標は、目指すべき各教科の得点、クラス順位、学年順位など具体的な数値がよい。

2 テスト勉強の開始時期を考えよう。

今回の勉強はいつから始めたのか。今回の結果に満足しているか。勉強時間は足りたか。もし結果に満足できない、勉強時間が足りなかつたと感じているなら、次回は、開始時期をもう一週間早めてみよう。

3 「量」を確保しよう。

136期生の平日と休日の学習時間を調査したところ、平日最高6.5時間、休日最高10.5時間という者がいた。

普段から、しっかりと勉強に取り組んでいる人、自分より勉強している人が確実にいるという事実を認識しよう。

4 「質」を見直そう。

「量」を確保すると同時に、最も重要なのは、やはり「質」である。集中の度合いや勉強内容の見直しが不可欠だ。

授業の予習や課題、小テストの勉強をこなすことだけに精一杯にならないだろうか。授業の予習はもちろん大切だが、それだけで日々の学習が終わっているようでは、「安高生」とは言えない。

安高生なら、予習などの他に、あとプラス30分～1時間は、授業の進度とは別に、自分のための勉強、今の自分にとって必要な勉強をしなければならない。

5 「苦手」を作らずに進級しよう。

今の自分に必要な勉強とは何だろう。好きなものや得意なものなど、決まった教科の勉強に偏りがちではないか。苦手なものから目を背け続けると、後で取り戻しがつかない。

1年生の最大のテーマは、苦手教科を作らないことである。たとえ得意な教科であっても、苦手な分野はあるはずだ。現段階で、苦手な教科や、苦手分野があるならば、それを徹底的につぶしていく。苦手と同じく、逆にそれを自分の武器に変えることも可能なのだ。そんなことができる1年生の今の時期だけである。